

3月29日 :ひとりひとりのためのニュース

No. 7

発行：社会福祉法人くわの福祉会
特別養護老人ホームおおつき内

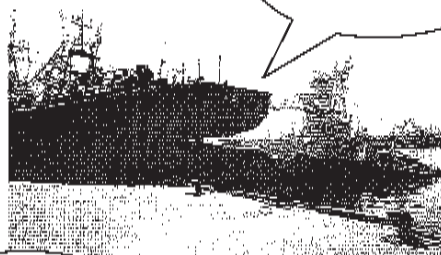
① 特養副処遇部長 寺崎ルポ ～被災地いわき、小名浜の現状～

◆昨日28日に友人に会うために特養おおつき副処遇部長の寺崎友恵さんは娘を連れていわき市へ出向きました。気持ちの一方では「今被災したこの現状をしっかりと見てこなくてはいけない。たいへんな時期だけど残して伝えなくちゃいけないことがあると思った。」という気持ちが行動へと駆り立てたといいます。

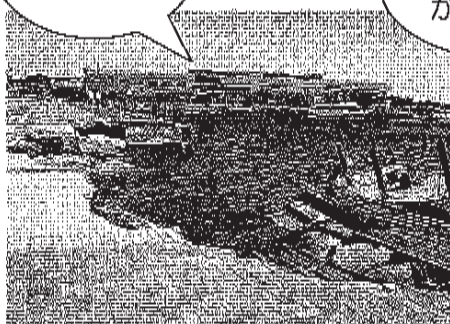
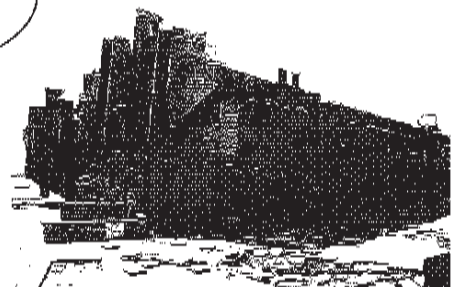
いわき市へ入ると海岸線に車を走らせ、道路や建物など目に飛び込んでくる惨状をフィルムに収めていきました。建物は全壊、道路は堅ちて無くなっている様子、がれきの山々、打ち上げられた船、津波で枯れてしまった田んぼなどなど。市内においては原発による避難指定地域に入っていないにも関わらず、原発に近いというだけで物資がまだまだ届きにくい現状だと友人は話していたそうです。それでも多くの住民が市内にとどまり、復興を信じて生活をしながら生きているという現状です。「同じ福島県でもこうも違うのかと。もっと北へ向かおうとしたが、救助に携わる消防団も解散していてとても手つかずの状態だからと聞かされて断念してきた。どうすることもできない。」と寺崎さんは苦しい気持ちを抱えて帰ってきたそうです。「特養おおつきの職員にも見せたい。」と、ここにあの被災から立ち上がろうとする街があることが事実なのです。



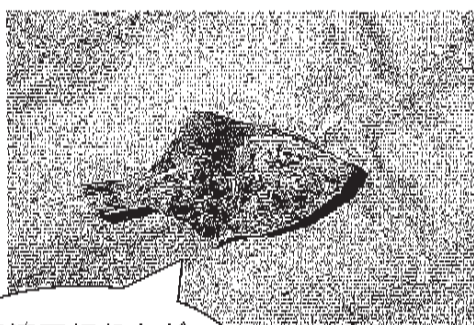
いわきから
ミュウ



船が打ち上げ
られています



ここまで津波
が来ました。



津波で打ち上
がった魚は干物へ



アクアマリン
福島です

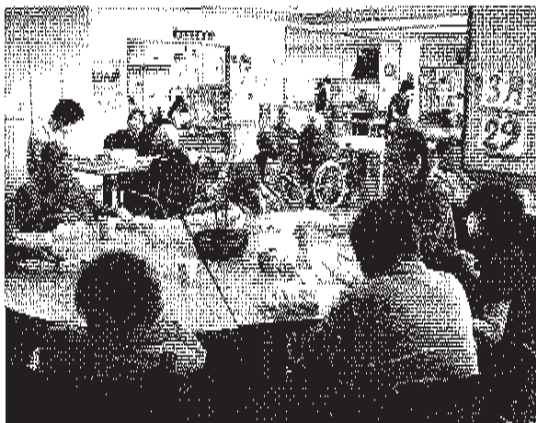
② 避難地での再会 ～たてやま荘被災者とその親族の再会～

◆たてやま荘の避難者の皆さんが特養おおつきで過ごされてから早2週間が過ぎました。ダイルームから特養へと生活の場を移されたり、慣れない職員と過ごす中でも徐々にコミュニケーションを取り始めています。タオルや洗濯たたみなどをお願いすると一緒になってお手伝いをしてくださったり、同じテーブル同士の方々とお話しをされたりして過ごされています。

今日はグループ内で野菜を切ったりしながらサラダ作りに参加したり、積極的に生活にとけ込んでいる様子です。

昨日は、たてやま荘から避難された利用者のご親戚がたまたま避難所が近く、面会に訪れ久々の再開となりました。「避難させてもらっているのに、良くして下さりありがとうございます。」と挨拶され、しばしのだんらんの時間を過ごされました。1組の再会でしたが、他のご家族もご親類もどこに避難されているのか？と土地勘もない分、特養での避難生活を心配されている方がいらっしゃるそうです。

たてやま荘の避難された利用者の方々は、避難生活がいったいつまで続くか不安でしょうが、お互いに助け合い・励まし合いながら、安心安全に過ごしてもらおうと特養おおつき職員は接しています。



テーブルを囲んでお手伝いして、そして一服しています。

③ 今後の動きについて

◆市内の特養施設長会として市役所へ要望書を提出してきました。①ガソリンなどの燃料の確保・②放射能による野菜などの損害もみられたので、食糧の確保・③他市町村からの避難者の受け入れ調整を特養へ要請する場合は市役所の窓口一本化で取りまとめてもらいたい・④市内施設の避難が行なわれる場合はすみやかに安全な対応策を取ってほしい、と主に4点を挙げて提出しました。役所の反応は要望書を受け取るということに留まりました。が、必要時にはぜひ実行していただくことを切望します。

●お知らせ●

- ①インフルエンザの流行が続いております。外からの感染を防ぐためにも出入りする職員の皆さん、一人一人意識を持って行動して下さい。
- ② 再度のお知らせです。職員の皆さんが加入している各共済への災害見舞金等の請求については、確認が取れ次第、後日各職場へお知らせします。
- ③ 念を押して、ガソリンの供給は出来ますので必要時には事務所までご連絡下さい。

発行：福島県郡山市大槻町西勝ノ木5・1

024-962-3939

施設長 菊谷 朗